

第1学年 道徳科学習指導案

日 時 令和3年11月10日(水) 1校時

学 級 1年4組(男子13名 女子12名 計25名)

会 場 1F 小ホール

指導者 橋浦 公一

1 主題名 人の思いを考える【B(6)思いやり、感謝】

教材名 「赤い手袋」(出典:岩手県道徳教育郷土教材集「ふるさといわての心 中学校編」)

2 主題設定の理由

(1) 生徒について

4月に行った道徳アンケートでは、「昨年度の授業が好きだった」と回答した生徒が73%と多く、授業に対して前向きな気持ちで臨んできたと考えられる。しかし、「自分が感じた本音(本当の考えや気持ち)を表現(話す、書く、伝えるなど)できた」という質問に対して「よく当てはまる」と回答した生徒は23%、「自分は他の人を思いやることができるようになったと思う」という質問では31%程度であったことから、考えたことを周囲に素直に表現できなかつたり、相手のために行動することが積極的にはできなかつたりする生徒が多いことが現状である。

本時の授業では、相手の思いを分かろうとし、思いやりのある声かけができたり、行動に移したりできる意欲を育てたい。本学級の生徒は、周囲に対して前向きな声かけができる人が多い一方で、相手の思いを理解しようとしてほしいと思う一面も多々見られる。今後よりよい集団生活を送るためにも、道徳の授業を通して幸せに生きていくヒントを見つけていってほしい。

(2) 道徳的価値について

本授業は、中学校学習指導要領における内容項目「B 主として人との関わりに関すること」の「6 思いやり、感謝」に関わる内容である。思いやりの心は、他者と関わって生きていくときに必要な心で、相手の立場を尊重しながら、親切にしたり、励ましたりしようとする上で現れる。一方で、感謝の心は、受けた思いやりに対する心の在り方である。本主題においては単に思いやりが大切である、ということだけで終わらないようにしたい。相手の立場や気持ちを考えたり、素直に言葉や行動で表現する難しさを感じたりなど、思いやりに対する理解をさらに深めていく。思いやりや感謝の気持ちを素直に伝えようとする心と言動が、お互いの絆を強くすることに気付かせ、結果として将来幸せに生きていく力をこの中学校の段階で高めていき、人の思いがわかる生徒を育てたい。

(3) 教材について

本教材は、東日本大震災における被災地支援と向き合う中学生の話である。ボランティア委員長の主人公が、取り組みの中で迷い、悩みながらも、思いやりの在り方やボランティアの意義について考えていく物語である。主人公は、仮設住宅への訪問のために手袋とメッセージカードの配布を企画する。張り切る主人公だったが、クラスメートの「自己満足ではないのか」という問いかけによって悩み始める。不安を抱えたまま当日を迎える中、最後の一軒で一人のおばあさんと出会ったことで、大切にすべきことに気付いていく。

3 主な教育活動との関わり

| 活動 | 時期 | 内容 |
|-----------|-----|------------|
| 日常生活 | 通年 | — |
| 行事 | 5月 | オリンピア（体育祭） |
| 総合的な学習の時間 | 6月 | 福祉体験学習 |
| 行事 | 10月 | わだつみ祭（文化祭） |

4 本時の指導

(1) ねらい

葛藤する主人公の気持ちの動きを通して、相手を思う行動や気持ちが大切で、人の思いを考えて行動しようとする態度を育てる。

(2) 研究内容との関わり

| 研究の手立て | 具体的内容 |
|-------------------------------|---|
| ① 生徒が本音を表現するための発問、ツール、学習形態の工夫 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒の発言をつないだり、追発問を有効に使ったりして、本文にはない主人公の思いを考えさせる。 「判断」の発問でネームカードを活用する。 |
| ② 中心発問から逆算した授業づくり | <ul style="list-style-type: none"> 振り返りでどう書かせたいか、中心発問でどう深めたいかを吟味し、他の発問に生かす。 |

(3) 評価の視点

- ① 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。
- ② 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか。

(4) 展開

| 段階 | 学習活動と主な発問 (◎中心発問 ○基本発問 ◇補助発問) | 予想される生徒の反応 | 指導上の留意点（・） 評価（□） |
|-----------|---|--|---|
| 導入 5分 | 1. 教材の内容に近づく。 ・誰かに贈り物をしたときのことについて考える。 | ・誕生日プレゼントを贈ったことがある。何を贈ればいいのか考えるのが難しい。相手が喜んでくれると自分もうれしくなる。 | ・自分の体験を想起させるなどして、教材の主人公の気持ちが理解できるようにつなげる。 |
| 展開 40分 | 2. 教材を範読する。 3. 葛藤する主人公の気持ちを考える。 ○健二に何も言い返せないサキをどう思うか。 | <ul style="list-style-type: none"> お金の方が役立つ。 健二の考えも分かる。 お金では少しさびしい。物の方が温かい。 手袋を届けようと決めた自分にもっと自信をもつべきだ。 | <ul style="list-style-type: none"> 訪問は初めてでわくわくしていた主人公だが、健二の言葉をきっかけに、手袋で自分の思いが伝わるのかどうか、不安な気持ちを通して議論させる。ネームカードを活用する【手立て①】。 |

| | | | |
|---|---|---|--|
| <p>展開 40分</p> | <p>4. おばあさんが涙を流す姿を見て、葛藤する主人公に共感する。 ○サキが思わずおばあさんの手を握りしめたのはなぜだろうか。</p> <p>5. おばあさんの感謝の心から気持ちが晴れやかになった主人公の姿を通して、思いやりについて考える。 ◎はがきを読んで、涙が止まらなかったサキはどんな気持ちだったのだろうか。</p> <p>6. 相手の思いを考えようとする事について理解を深める。 ○健二の問いかけに、今ならサキさんは何と答えるだろうか。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 泣くと思わなくてびっくりした。 何と言ったらいいか分からなかった。 気持ちが伝わったのかもしれないと思った。 メッセージや手袋で感動してくれたのだろう。 思いがちゃんと伝わってよかった。 自己満足ではなかったようで安心した。 会ったときはうまく話せなかったけど、しっかり伝わって嬉しい。 何を贈るかも大切だけど、思いが伝わるかどうかが一番大切だと思う。 震災の年でさらに寒く感じる冬だから、体も心も温まってほしいと考えた。 | <ul style="list-style-type: none"> 本音を表現できるよう、生徒の発言をつないだり、追発問を有効に使ったりする【手立て①・②】。 おばあさんが涙を流す姿を見てもうまく言葉にならなかったのはどんな思いがあったからか考えさせたい。 伝わったと考えられる思いや気持ちはどのようなものなのか深めたい。 □一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか（視点②）。 今回の訪問で主人公が気付けたこと、大切にされたことは何だったのか考えさせたい。 |
| <p>終末 5分</p> | <p>7. 振り返りを記入する。</p> | | <p>□道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか（視点①）。</p> |
| <p>【振り返り（感想）文例】 「相手の気持ちを考えて行動することは大切で、どんなことが相手を喜ばせたり、幸せにしたりするのか考えることも重要だと思った。これから何か行動するときには、相手の気持ちを常に考えていきたい。」</p> | | | |

(5) 板書計画

| | | | | | | |
|------------------|--------------|-------------------------------------|----------------------------------|--------------------------|---------------------------|-------------|
| <p>職員室へ向かうサキ</p> | <p>あらすじ④</p> | <p>あらすじ③ はがきを読む 涙が止まらない</p> | <p>あらすじ② 被災地でおばあさんとのやりとり</p> | <p>ネームカード ネームカード</p> | <p>あらすじ① 健二とのやりとり</p> | <p>赤い手袋</p> |
|------------------|--------------|-------------------------------------|----------------------------------|--------------------------|---------------------------|-------------|